令和４年度小平市立小平第十三小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

１　調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

２　調査内容

（１）教科に関する調査

身に付けておかなかければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析	課題
国語の正答率は、全国・東京都平均を上回った。特に「知識及び技能」における「我が国の言語文化に関する事項」では全国平均より 8.8 ポイント、「話すこと・聞くこと」では 7.1 ポイント高い数値であった。 一方で「書くこと」の正答率は、全国・東京都平均をともに下回る結果となった。また、問題形式別に見てみると、記述式問題の正答率が他の問題形式に比べて低かった。	「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」こと、「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」ことが求められる問題の正答率が著しく低かった。文や文章を整えるためには、文章全体の構成や、書き表し方に注目して推敲すること、文章の感想や意見を伝え合い、よいところを見つけるためには、その文章の要点を的確に捉え理解すること、が課題としてあげられる。

学校で取り組む具体的な改善策

- 課題である書く力を身に付けるために、文章を書く際の材料を図的に表して整理したり関連付けたりして、それぞれの段落に書く内容を精査しながら文章構成を検討させる。その際、苦手意識の高い児童には、文章例の提示や個に対応したワークシートを使用する。
- 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けるために、文章の要点、要旨を的確に見つけ、それに対する自分の考えやその理由を叙述に根拠を見出して述べられるようにする。その際、表現の工夫についても着目できるよう指導する。

【算数】

状況の分析

平均正答率では、全国平均とほぼ同じ、東京都平均を下回る結果となった。「データの活用」領域では、全国平均よりも 7.6 ポイント高い値を示した。

一方で「図形」、「変化と関係」領域では東京都平均を下回り、評価観点別では「思考・判断・表現」の値は、東京都平均より低い値だった。

課題

「図形」領域の問題では、三角形の作図の手順を正しく選ぶ問題の正答率が低かった。示されたプログラミングの情報をを整理して捉え、論理的に処理する場面に課題がみられる。「変化と関係」領域では特に「数量が変わっても割合は変わらないことを理解していること」を問われる問題での正答率が低かった。割合の基本的な知識・理解に課題がみられる。

学校で取り組む具体的な改善策

・児童の実態を把握し、習熟度別指導をとおして、個に応じたきめ細かい指導を継続する。
・朝学習やチャレンジ教室では、東京ベーシックドリルを活用する。特に毎週金曜日は東京ベーシックドリルに取り組む時間を設ける。その際、診断テストの結果を基に適宜学習内容を精選し、基礎・基本の習熟の徹底を図る。
・問題を解決するために既習事項を活用しながら結果への見通しと解決の方法への見通しがもてるような授業を展開する。
・プログラミングの活用を適切に取り入れて、論理的思考のもとに作図ができるようにする。

【理科】

状況の分析

平均正答率は、全国平均とほぼ同じで、東京都平均を下回る結果となった。「生命を柱とする」領域では、全国平均よりも 3.7 ポイント高い値を示した。

一方で「粒子を柱とする」領域では全国・東京都平均を下回り、評価観点別では「知識・技能」の値は東京都平均より低い値だった。

課題

「粒子を柱とする」領域では、一定量の液体の体積を適切に測り取る器具の名称を答える問題の正答率が著しく低かった。器具の名前や、適切な使用方法を理解していないという課題がみられる。また、「エネルギーを柱とする」領域では、日光は直進することを問われる問題での正答率が低かった。この問題は、光の性質についての理解と、問題を読みとく力に課題があるとみられる。

学校で取り組む具体的な改善策

・目的をしっかりおさえ、生活経験や既習事項を生かして観察、実験を行うようにする。
・道具やその使用方法をしっかりと押さえた上で、観察・実験に取り組めるようにする。
・題意を明確に捉え、何を用いて回答すればよいのかを、普段の授業の中で意識をしてなげかけるようにする。

【質問紙】

状況の分析

① 「人の役に立つ人間になりたいですか」という質問に対し、９割以上の児童が肯定的な回答を示した。

② 「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対し、８割以上の児童が肯定的な回答をした。

③ 「学校の授業時間以外に、普段１日当たりどのくらいの時間勉強をしますか」という質問に対し、２時間以上と答えた児童は東京都平均よりも 10.7 ポイント低かった。最も高かったのは、「30 分以上１時間未満」で全体の３割程度だった。

④ 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」という質問に対し、３時間以上と答えた児童は全体の１割程度で、東京都平均より 15.5 ポイント低かった。最も高かったのは「１時間以上２時間未満」で全体の３割程度だった。

課題

③に関して、本校では家庭学習時間の目安として「10 分×学年」という目標を掲げているため、平日は１時間くらいの学習時間の児童が多い。

④の休日の家庭学習時間の設問では、平日に最低１時間の家庭学習に取り組むことを考えると、それ以上の時間を確保することが望まれる。「3 時間以上」家庭学習に取り組んでいる児童の割合は、東京都平均と比べると少ない。東京都平均が示した値に近づくため、学習時間の延長が求められる。

学校で取り組む具体的な改善策

・家庭学習をどのようにすすめればよいのか、学年通信、保護者会、個人面談等を利用して、具体的な学習事例、それにかかるおよその時間を示し、保護者がどのように家庭学習を進めればよいのか見通しをもてるようにする。

・朝学習やチャレンジ教室の時間を活用し、家庭学習で補いきれない学習の基礎・基本の定着を図っていく。